

仙酔島遊歩道

仙酔島遊歩道は、島の南海岸に沿って田ノ浦から彦浦まで計 600 メートル続きます。この遊歩道は岩層、海食洞、そして島の地質学的歴史に重要な他の場所を通ります。

仙酔島の基盤岩は主に大規模な爆発的噴火の際に放出された火山灰や岩屑でできた流紋岩質凝灰岩です。この凝灰岩は、日本列島がユーラシア大陸の一部を成していた、約 9000 万年前の激しい火山活動の時期に生成されました。海岸の断崖にある断層線は、相当な地震活動の証拠です。古代の砂、シルト、泥によって水中で形成された、堆積岩が一部露出して見られます。

島には約 200 の海食洞があり、そのいくつかは遊歩道から見ることができます。現在の満潮線より上にあるものもありますが、これは形成時の海面が今より高かったことを証明しています。遊歩道の終わり近くには五色岩（文字通り、色付きの岩）がありますが、これは流紋岩質凝灰岩が露出した露頭です。様々な色は島の基盤岩の多様な鉱物組成と岩に含まれる鉄の様々な酸化レベルを示しています。